

## 今週（6月3日から6月7日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週の日銀当座預金残高は週初397.1兆円から始まり、3日の機関貸付回収、4日の大幅な税揚げ、5日の10Y発行などで391.7兆円程度まで減少した。無担保コールO/N物は、4日の税揚げと普通交付税の払いを受け参加者のスタンスに違いが見られた。都銀業態では税揚げを受け、ポジションの悪化から、調達ニーズが高まった一方、地銀業態では税揚げ以上に交付金の入りが大きく、調達ニーズが減退した。都銀業態の調達姿勢の強まりを受け、もともと調達ニーズが強かった証券・信託業態はレートを切り上げる場面が見られ、加重平均レートは徐々に上昇する展開となった。ターム物はショートタームで▲0.04%前後の出合いが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは7日に2W物・15,000億円がオファーされ、2,493億円（期落ち額2,744億円）と札割れとなった。

### ●レポ市場

今週のGC O/N物は、積み期間後半に入ったことやファンディングニーズの高まりもあって、資金調達ニーズが安定的に見られた。レートは横ばい圏で推移しており、概ね▲0.09～▲0.07%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、5年130～139、10年336～353、20年160～168、30年55～62、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、米国の利下げ期待などから債券相場全体が強含みで推移する中、1Y物で▲0.200%近辺の出合いも見られるなど、6M超えの銘柄については連れ高の展開となった。一方、ファンディングレートが小高く推移していることもあってか、3Mゾーンは▲0.155%程度の落ち着いた出合いとなっていた。

4日に実施された短国買入オペは2,500億円でオファーされた。平均落札利回り較差+0.011%、按分落札利回り較差+0.007%と、引け値の低い銘柄の在庫調整の売りからか小甘い結果となった。

6日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.170～▲0.168%で出合う展開となる中、平均落札利回り▲0.1654%、按分落札利回り▲0.1614%と、前回債からレートが低下する結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.175～▲0.170%出合いと堅調に推移した。

7日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.150～▲0.145%で出合う展開となる中、平均落札利回り▲0.1443%、按分落札利回り▲0.1363%と、WI取引の小甘い出合いを反映し、テールが流れる結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.147～▲0.145%出合いと堅調に推移した。

### ●CP市場

今週のCP市場は月初ということもあり、発行案件に広がりも見られず、週を通して落ち着いたマーケットとなった。週間発行総額は、鉄鋼、石油・石炭、機械、ノンバンク業態でまとまった額の調達が行われたこともあり、5,700億円程度と償還総額5,600億円程度を若干上回った。市場残高は週を通して20兆円台半ばと横ばいで推移した。発行レートに特段の変化は見られず、一部の発行頻度、発行残高の低い銘柄で浅いマイナスでの出合いが見られたものの、全般的には0%近辺の狭いレンジで決着した。

4日にはCP等買入オペが2,500億円オファーされた。結果は平均落札レート0.001%、按分落札レート▲0.001%と、平均、按分ともに前回比横ばいとなったものの、応札額は4,911億円と前回の6,677億円から大きく減少、応札倍率は1.96倍となり、業者のオペ応札への消極姿勢が浮かび上がる結果となった。発行残高が高水準で推移する中、発行レート、オペ按分レートともに0%前後で膠着している。最終投資家のキャッシュ潰しを目的とした0%での買いニーズは根強く、発行量の多い銘柄の入替を除き、業者がオペに積極的に応札する妙味は低下しているものと推測される。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/3 (月)	20,410.88	△ 0.095	108.25	△ 0.060	△ 0.085	3,971,600
6/4 (火)	20,408.54	△ 0.105	108.02	△ 0.057	△ 0.086	3,933,500
6/5 (水)	20,776.10	△ 0.130	108.12	△ 0.054	△ 0.085	3,917,100
6/6 (木)	20,774.04	△ 0.125	108.24	△ 0.053	△ 0.090	3,920,000
6/7 (金)	20,884.71	△ 0.120	108.48	△ 0.053	△ 0.090	3,922,700

## 来週（6月10日から6月14日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/10 (月)	1-3月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 4月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 4月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 5月の景気ウォッチャー調査(内閣府)				
6/11 (火)	5月のマネーストック(日銀 8:50)	流動性供給 6,000億円 6/12発行	エネルギー 対策借入 7,500億円 6/20借入		5月の米生産者物価指数
6/12 (水)	4月の機械受注統計(内閣府 8:50) 5月の企業物価指数(日銀 8:50)				5月の米財政収支 5月の米消費者物価指数
6/13 (木)	4-6月期の法人企業景気予測調査季報(内閣府・財務省共管 8:50) 4月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	30Y 7,000億円 6/14発行	交付税借入 10,500億円 6/21借入		
6/14 (金)	第8回FinTech (フィンテック) フォーラムにおいて池田理事講演	TB3M 43,300億円 6/17発行			5月の米小売売上高 4月の米企業在庫 5月の米鉱工業生産・設備稼働率 6月のミシガン大消費者信頼感指数速報

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/10 (月)	900	▲ 10,300	▲ 9,400	国債買入 全店共通 CP買入 国債補完	▲ 2,700 ▲ 100 100	7,900 2,500	7,700	▲ 1,700	TB3M発行▲43000償還43600 TB6M発行▲23000償還22900
6/11 (火)	0	3,000	3,000				0	3,000	
6/12 (水)	0	▲ 6,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	源泉所得税揚げ 社会保障費 流動性供給▲6000
6/13 (木)	▲ 1,000	3,000	2,000				0	2,000	
6/14 (金)	▲ 1,000	67,000	66,000	CP買入 全店共通 被災地支援	▲ 700 ▲ 2,300	2,500	▲ 500	65,500	年金定時払い 30Y発行▲7000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 1,100	56,700	55,600	—	▲ 5,700	12,900	7,200	62,800	

6/10は日銀予想、6/11以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終週となり、大手行を中心に調達ニーズが強まると見込まれる一方、14日は年金支給日となることから、地銀業態では調達を控える動きも見られると予想する。レポ市場は、積み期間の最終週となるため、資金調達ニーズの動向が注目される。短国市場は、14日に3M物の入札が実施予定となっている。堅調な相場が続く中、需給環境や足元レートの高止まりが3M物のレート水準へどう影響するか、市場動向が注目される。CP市場は、11日にCP等買入オペが2,500億円で実施予定となっている。直近のオペで応札額が大きく下がったことが、応札目線にどの程度影響を与えるか注目が集まる。

主要なイベントとしては、国内では10日に1-3月期GDP2次速報、海外では12日に5月の米国CPIが予定されている。

- 本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- 金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。